

大会参加

第41回 全日本少年サッカー大会 参加報告

----- 「全日本少年サッカー大会に参加して」 3級審判員（ユース）：藤 真悠子 -----



[上写真]

関西派遣のインストラクターの方々と審判員
(右端が藤審判員)

[下写真]

桜島を背にトレーニングに励んだ



今回関西からの推薦で12月24日から12月29日まで鹿児島県で開催された全日本少年サッカー大会にユース審判員として参加させていただきました。

この大会に参加することが私の高校生の間の一つの目標だったので、参加させていただけると聞いてとても嬉しかったです。

今回ユース審判員は32人、地域のインストラクター17人、JFAスタッフの方が16人参加しました。ユース審判員は私以外女性がいなかったため、一週間過ごせるか少し心配の中でのスタートでした。周りの審判員が男性だからといって物怖じせず、「絶対に決勝リーグの割り当てを頂こう。」という志で望みました。

今回の大会のテーマは「大会を成功させる」。そして審判員のテーマは「課題にチャレンジする」でした。審判員は選手同士がサッカーを楽しんでプレーできるように支える立場にあるので、しっかり自分が今何を見たくて何が課題なのかをはっきりさせることが大切だと改めて学びました。大会を成功させるには「off the pitch と on the pitch」の過ごし方が大切になるとも学びました。しっかり準備して試合に挑もうと思いました。自分がすべきこと、審判チームとしてしなければならないことをはっきりしないと、大会は成功しないという志に審判員はなりました。その中でも選手の能力を最大限引き出すには、「安全に、公平に判断しながらサッカーの魅力を引き出す」という言葉がとても胸にささりました。試合を割り当てられてない時間をどのように過ごすかが選手のために、自分のために「鍵」になるということです。

2日目は桜島が見えるグラウンドでフィジカルと実技のトレーニングをしました。1日目の夜の講義でフィジカルについての講義を受けました。しっかりトレーニングをしていくことによって、自分の判断もかわるという言葉を受け、体幹トレーニングや長距離、スプリントなど自分に不足している部分をしっかりトレーニングしたいと思いました。2日目のフィジカルでは、審判をする前の体のほぐし方やスプリント、クールダウンの仕方を学びました。いままでこのようなトレーニングや講義を受けたことがなかったのでたくさん事を学びました。

第41回 全日本少年サッカー大会



6日間ともに過ごした班のメンバー

スプリントが苦手だった私にはとてもためになるトレーニングでした。実技トレーニングではオフサイド、逆襲からのスプリント、ファウル判定を学びました。明日からの試合ではしっかり意識しながら取り組みたいと思いました。特に一人審判をやる上ではしっかりオフサイを見極めないといけないので意識して明日を迎えようと思いました。

その後市民ホールに移動してリスペクトワークショップに参加しました。しっかりとした意見を持っている小学生もいてすごいなと思いました。周りの小学生と仲良くなれたのでとても楽しい時間を過ごしながら小学生と一緒に学べたと思います。

3日目からは割り当てを頂いての審判実習となりました。3日目に主審を1試合、補助審判を1試合、4日目に主審2試合、補助審判2試合、5日目に主審1試合の割り当てをいただきました。ベスト16、ベスト8の割り当てをいただけたのは本当に嬉しかったです。ベスト8の割り当てを発表されたときは朝食を食べている時でしたが、緊張で朝食が喉を通りにくくなりました。

今回の大会に参加するにあたり自分の中で「いい角度で事象を見ることが出来るポジショニングを取ること」を目標としていました。試合を重ねるにつれて、この目標を達成するための手段としてたくさんのことを指摘していただき学びました。今回の研修会で私が特に身につけることができたのがスプリントだと思います。他の審判員のスプリントのかけ方やタイミングなども見て学びました。

私がとても心に残っている試合はベスト16の試合です。地元鹿児島県のチームの試合とあって観客がたくさんいる中での試合となりました。自分自身この大会で学んだことを最大限発揮でき、とても楽しんでレフェリングすることができました。

しかし、ハーフタイムに自分の身体を冷えないようにケアするのを忘れていました。そのために後半の初めは自分のレフェリングがとても悪くなってしまいました。とても後悔しています。研修会でこのような言葉を習いました。「失敗」と書いて「けいけん」と読む。いろいろなことにチャレンジするから失敗をして、それが次へのステップになる。

そしてその失敗はいつか自分にとって大事な経験と気づく。ということです。今回たくさんのチャレンジをして失敗をしました。それをしっかりと次に繋げていきたいなと思いました。

今回はこのような貴重な経験をさせていただける機会を与えて下さり、ありがとうございました。